



万年筆の秘密基地

まんねんひつ の ひみつきち



第1回 そもそも万年筆ってなに？

みなさん、こんにちは！

今月からはじまりました『万年筆の秘密基地』では、万年筆を『しくみ』『えらぶ』『つかう』『もっと』のカテゴリに分け、万年筆メーカーならではの視点や裏話を交えながら万年筆についてお話ししていくコーナーです。

これを読めば、万年筆がもっと好きになるはず！

第1回は、「そもそも万年筆ってなに？」ということで、4つのカテゴリの説明をしながら、万年筆についてざっくりと紹介します。

疲れ知らずの筆記具

しくみ



万年筆は英語で「Fountain Pen (泉のペン)」といいます。それは、泉のようにインクが湧き出るから。他の筆記具と違って、ペンを紙に載せただけでインクがすーっと出ていくので、ほとんど筆圧をかけなくても文字がすらすら書けちゃうんです。そのため、たくさん文字を書く小説家や記者、弁護士などが好んで使っていました。

『しくみ』では、万年筆の構造に注目！「インクはどうやってペンの先に届くの？」「なぜ筆圧をかけずに書くことができるの？」「万年筆の『書き心地』って？」など、万年筆の不思議をひもときながら、中身に迫っていきます！

ピッタリの1本を見つけよう

えらぶ



万年筆は、それぞれで書くことができる線の太さや書き心地が変わってきます。見た目もいろんな素材や装飾があって、目移りしちゃいますよね…。

『えらぶ』では、「どんな文字を書く？」「どんな時に使う？」など、自分の目的にあった万年筆選び方を紹介！ずーっと使い続けたいくなる、自分だけの1本を見つけてみましょう。

書いて楽しい

つかう



万年筆は、他の筆記具と違ってインクでも楽しめちゃいます！万年筆インクの専門書が販売されるほどたくさんの種類があり、「インク沼」という言葉も生まれました。使うインクや紙が変わるだけで、書き心地や気分も変わる、不思議な筆記具なんです。

『つかう』ではインクをはじめ、よりいっそう万年筆を使いこむためのアイテムや、ちょっと変わった使い方などを紹介します。

ようこそ、「沼の入口」へ。

万年筆をもっと楽しむために

もっと



デジタル化が進んだことにより、かえって手書きの大切さやあたたかみが注目されています。そのなかでも万年筆は、日常の中で贅沢な時間を感じられる、ちょっと特別な筆記具ですよね。

『もっと』では、万年筆をもっと楽しむためのヒントや趣味の実例などを紹介します！レトロな筆記具と思われがちですが、今の時代ならではの楽しみ方がまだまだ見つかるかも。

というわけで、今回は4つのカテゴリと、万年筆について簡単にお話ししました。

次回からは早速、『しくみ』についてお話ししていきます。お楽しみに！